

[分類] 普及技術

[成果名] レタスのレタスベと病防除にドーシヤスフロアブル、レタスおよび非結球レタスのレタスベと病防除にランマンフロアブルが有効である

[要約] レタスのレタスベと病防除にドーシヤスフロアブルの1,000倍液、レタスおよび非結球レタスのレタスベと病防除にランマンフロアブルの2,000倍液を散布する。散布は発病前から予防的に実施する。

[担当] 野菜花き試験場佐久支場、病害虫土壌肥料部

[部会] 病虫部会

1 背景・ねらい

レタスベと病は近年多発生し問題となっているが、有効な登録農薬が少なく、生産現場では防除対策に苦慮している。本病を防除するため効果の高い薬剤を選定するとともに、レタスに対する薬害の有無を検討する。試験は平成16年および平成17年に実施したが、平成20年に農薬登録されたため、今回普及技術とした。

2 成果の内容・特徴

(1) レタスのレタスベと病の防除に、ドーシヤスフロアブルの1,000倍液、レタスおよび非結球レタスのレタスベと病の防除に、ランマンフロアブルの2,000倍液を散布する。

農薬登録内容

ドーシヤスフロアブル

[一般名及び成分含有量] シアゾファミド：3.2% TPN：40.0%

[毒性] 人畜毒性：普通物 [魚毒性] C類

[対象作物に対する適用登録状況（平成20年9月16日現在JPP ネット確認）]

作物名	適用病害名	希釈倍数	散布液量	使用時期	使用回数	使用方法	シアゾファミドを含む農薬の総使用回数	TPNを含む農薬の総使用回数
レタス	べと病 すそ枯病	1,000	100～ 300L /10a	収穫14 日前ま で	3回以 内	散布	3回以内	5回以内(土壌灌注 は2回以内、散布は 3回以内)

ランマンフロアブル

[一般名及び成分含有量] シアゾファミド：9.4%

[毒性] 人畜毒性：普通物 [魚毒性] A類

[対象作物に対する適用登録状況（平成20年9月16日現在JPP ネット確認）]

作物名	適用病害名	希釈倍数	散布液量	使用時期	使用回数	使用方法	シアゾファミドを含む農薬の総使用回数
レタス	べと病	2,000	100～ 300L /10a	収穫3 日前ま で	3回以 内	散布	3回以内
非結球レタス							

3 利用上の留意点

- (1) 共通
 ア 散布は、発病前から予防的に実施する。
 イ 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、連用は避け、作用性の異なる薬剤とのローテーション散布を行う。
- (2) ドーシャスフロアブル
 ア 本剤は、新しい作用を有する新規系統のシアゾファミドと既知TPNとの混合剤である。
 イ 眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。
 ウ 水産動物に強い影響を及ぼすので河川・湖沼および養殖地に飛散、流入するおそれのある所では使用しない。
- (3) ランマンフロアブル
 ア 本剤の有効成分は、新しい作用を有する新規系統のシアゾファミドである。

4 対象範囲

県下全域

5 具体的データ

(1) ドーシャスフロアブルおよびランマンフロアブルのレタスベと病に対する防除効果について、平成16年に小諸市現地ほ場において試験を実施した。中発生条件下での試験となった。ドーシャスフロアブルの1,000倍液散布は、対照薬剤のクリーンヒッターに優る防除効果が認められた。ランマンフロアブルの2,000倍液散布はクリーンヒッターに劣るものの効果が認められた。いずれの薬剤においても薬害は認められなかった(表1)。

表1 ドーシャスフロアブルおよびランマンフロアブルのレタスベと病に対する防除効果
(平成16年 野菜花き試)

供試薬剤	希釈 倍数	調 査 株 数	発病株 率(%)	発病度	防除価	薬害
ドーシャスフロアブル	1000	20.0	48.3	16.1	65.1	なし
ランマンフロアブル	2000	20.0	83.3	28.9	37.3	なし
クリーンヒッター	1000	20.0	70.0	25.6	44.5	なし
無処理	—	20.0	98.3	46.1		

値は3反復の平均値

試験場所：小諸市現地ほ場 発生状況：中発生 品種：アサマグリーン
 定植：8月20日 栽植距離：畦幅45cm、株間25cm 区制・面積：1区5m² 40株/区 3連制
 処理方法：平成16年9月6日(外葉生育期)、13日および21日の3回、所定量の薬液(アイヤー20の10,000倍加用)を背負式動力噴霧器を用いて10aあたり300リットル散布した。

調査方法：9月28日(最終散布7日後、収穫期)に、各区20株について発病の有無および発病程度を調査した。薬害は肉眼観察によった。

発病指数 0：発病を認めない 1：1/3以下の外葉に発病
 2：1/3～2/3の外葉に発病 3：2/3以上の外葉に激しく発病し、病斑が結球葉におよぶ
 発病度 = (Σ(発病指数×株数) / (調査株数×3)) × 100
 防除価 = 100 - ((処理区発病度 / 無処理区発病度) × 100)

(2) ランマンフロアブルのレタスベと病に対する防除効果について、平成17年に佐久支場において試験を実施した。少発生条件下での試験となった。ランマンフロアブルの2,000倍液散布は、対照薬剤のダコニール1000とほぼ同等の防除効果が認められた。薬害は認められなかった(表2)。

表2 ランマンフロアブルのレタスベと病に対する防除効果(平成17年 佐久支場)

希釈	調 査	発病株	発病度	防除価	薬害
----	-----	-----	-----	-----	----

供試薬剤	倍数	株数	率(%)			
ランマンフロアブル	2000	55.0	0	0	100	なし
ダコニール1000	1000	52.7	1.9	0.6	92.9	なし
無処理	—	54.3	22.3	8.4		

値は3反復の平均値

試験場所：小諸市山浦 野菜花き試験場佐久支場 場内ほ場 発生状況：少発生 品種：カスケード
 定植：5月9日 栽植距離：畦幅45cm、株間25cm 区制・面積：1区11.5㎡ 102株/区 3連制
 処理方法：平成17年5月31日（外葉生育期）、6月7日および14日の3回、所定量の薬液（Sハッテンの10,000倍加用）を背負式動力噴霧器を用いて10aあたり250リットル散布した。

調査方法：6月28日（最終散布14日後、収穫期）に、各区45～60株について発病の有無および発病程度を調査した。薬害は肉眼観察によった。発病程度調査基準は表1と同じ。

6 特記事項

[公開] 制限なし

[課題名、研究期間、予算区分]

新農薬の効果検定と実用化（病害虫土壌肥料部）、平成16年（2004年）、民間受託
 東信地域の作物に対する病害虫防除試験（佐久支場）、平成17年（2005年）、県単素材開発